

No. 46

- 01 第13回アジア太平洋都市サミット
- 02 SDGsに関するトピック
- 03 国連ハビタット福岡本部からの報告
- 04 福岡市のSDGs達成への取組み
- 05 アジア太平洋都市サミット事務局から

Localising the SDGs: Towards 2030



アジア太平洋都市サミットは、国際的な都市間連携を通じてアジア太平洋地域における都市問題の解決を図ることを目的に、福岡市が提唱し1994年から開催しています。各都市の代表者が一堂に会し、都市の課題やその解決に向けた取組みを共有するとともに、率直な意見交換等を行うことで都市間ネットワークの構築に資する取組みとなっています。

2018年8月に福岡市で開催した第12回アジア太平洋都市サミットは、SDGsを踏まえた「住み続けられるまちづくり」をテーマに、16か国32都市の代表者をはじめ、世界銀行、アジア開発銀行等の国際機関、優れた技術を持つ企業などから400名を超える方々にご参加いただきました。

そして2020年11月、再び福岡市で第13回目となるアジア太平洋都市サミットを国連ハビタット福岡本部と共同で開催します。都市問題の解決が地球規模の課題解決に貢献するとの考え方のもと、「SDGsのローカライズ～2030年に向けて～」をテーマに活発な議論を行います。

秋の福岡市で皆様とお会いできることを楽しみにしています。



福岡市長
高島 宗一郎

01 第13回アジア太平洋都市サミット

開催概要

日 程：2020年11月9日（月）～11日（水）
会 場：ヒルトン福岡シーホーク（福岡市中央区）
主 催：福岡市、国連ハビタット福岡本部
テーマ：SDGsのローカライズ～2030年に向けて～



第12回アジア太平洋都市サミットでは、「都市」はSDGsの達成に不可欠な存在であり、その役割と責任が大きいことが確認されました。

また、SDGsの取組みの遅れが指摘されている中で、2030年までの目標達成に向けては、国際的ないし国家的な取組みだけでなく、市民生活に最も密着した施策を行う「都市」の役割が重要とされています。

そこで第13回都市サミットでは、「SDGsのローカライズ～2030年に向けて～」をテーマとし、地域の特性に応じたSDGsへの優れた取組みについて、アジア太平洋地域の都市間で共有し、発展させていくための議論を行います。

プログラム（予定）

1日目：11月9日（月曜日）

開会式
基調講演
ハビタット・セッション
ネットワーキング・ブレイク
バイ会談
フォト・セッション
歓迎レセプション

2日目：11月10日（火曜日）

分科会
テーマ別講演
全体会議
閉会式
ネットワーキング・ブレイク
バイ会談
博多旧市街・美術館視察
フェアウェル・パーティ

3日目：11月11日（水曜日）

テーマ別視察
- スタートアップ施設
- スマートシティ
- 浸水対策施設（雨水調整池）
- 水管理センター 等
大相撲観戦

参加者（予定）

- アジア太平洋都市サミット 会員都市：15か国32都市
- 第13回アジア太平洋都市サミット オブザーバ都市：SDGsへの優れた取組みを有する都市など
- 政府機関：アジア太平洋地域の政府など
- 国際機関：国連ハビタットや世界銀行など
- 民間企業：SDGsへの優れた取組みを有する民間企業など
- 大学：SDGsに関する学術的知見または優れた取組みを有する大学など

The United Nations High-level Political Forum on Sustainable Development

ニューヨークの国連本部で、SDGsに関する初の首脳級会合が開かれました。本会合は、首脳レベルで2015年のSDGs採択以降過去4年間の取組のレビューを行い、SDGs達成に向けた機運を高めることを目的として開催されたものです。

国連のグレテス事務総長は演説で「我々はあるべき姿からかけ離れている」と述べ、SDGsの進捗の遅れに対して強い危機感を示しました。また、国連に加盟する190国・地域による共同宣言においても貧困撲滅や女性活躍、気候変動など多くの分野での遅れを憂慮するとともに、行動を加速する必要があるとされました。

(2019年9月24日～25日 米国・ニューヨーク)

Voluntary Local Review Declaration

ニューヨーク市の主催により、国連総会の開催に合わせて、都市が主導する世界の都市によるSDGsのレビューに関する宣言への署名式が国際連合本部で行われました。

ニューヨーク、ロサンゼルス、バルセロナ、ヘルシンキ、ブエノスアイレスなどの22都市が署名を行い、本宣言に基づく都市間の一層の連携を通じて、SDGsの達成に向けて課題解決に取り組んでいくこととなりました。

本宣言の主要なコミットメントは下記のとおりです。

- (1) 都市の基本計画等とSDGsとの関連性の整理
- (2) SDGsに関わるフォーラムの開催
- (3) 国連へのSDGsのレビューの提出

(2019年9月25日 米国・ニューヨーク)

COP25

地球温暖化対策に世界全体で取り組んでいくための締約国会議が2019年12月2日からスペインの首都マドリードで開催されました。

会議では、パリ協定の実施指針の中でも、外国で削減した温室効果ガスの削減分を自国の削減分として計上する仕組みである「市場メカニズム」について、各国の立場の溝が大きく当初の予定から会議を2日間延長して交渉が続けられたものの、最終的に合意を得ることができずCOP26へ持ち越されることとなりました。

また、パリ協定の気温上昇1.5～2℃未満目標に対して、温室効果ガスの削減目標の引き上げについて合意は得られたものの、目標引き上げの義務付けを文書に盛り込むには至りませんでした。

(2019年12月2日～15日 スペイン・マドリード)

第10回世界都市フォーラム開催

アラブ首長国連邦の首都アブダビにおいて、第10回目となる世界都市フォーラム（World Urban Forum: WUF）が開催されました。WUFは国連ハビタットが2年に一度開催する国際会議で、中東で開催されたのは今回が初となります。

本会議では”Cities of Opportunities”をテーマに、持続可能な開発目標の達成に向けて各国・組織が多様な関係者と連携を深め、課題やより良い取組みを共有しました。

概要

新型コロナウイルスの懸念もあり事前登録者・来場者数に影響が出たものの、1万3千人を超える参加者が世界各国（168か国[暫定]）から訪れました。

総イベント数は500にのぼり、様々な機関から600人を超える発表者が集まりました。WUF10回目にして女性の発表者が男性の発表者数を上回り、ジェンダー平等を達成できた会議にもなりました。

注目を集めた「福岡方式」ごみ埋立技術

WUFで開催された約80のサイドイベントの1つで、「福岡方式」のごみ埋立技術による活動を紹介しました。マレーシアやケニアなど世界中で採用されており、現在はエチオピア・ミャンマーへの導入作業を進めています。

現地では様々な都市と国連ハビタット福岡本部及び松藤福岡大学名誉教授との会合を開き、福岡方式の概要説明や導入の可能性に関する協議が開催されました。

都市の役割の重要性

閉会式において、宣言書が採択されました。国際機関や政府、民間団体などの主体ごとに期待される役割を述べており、本宣言においても都市の役割が重視されています。

宣言書の詳細は以下からご確認ください。

https://wuf.unhabitat.org/sites/default/files/2020-02/WUF10_final_declared_actions.pdf

会議のハイライトや開会式・閉会式の様子はYouTubeにアップロードされていますので、是非ご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=JA04q_VT5l8&t=161s (Highlights)

<https://www.youtube.com/watch?v=iUR6BahQrFM> (Flag Raising Ceremony)

<https://www.youtube.com/watch?v=HuJ3EOzIUz4&t=751s> (Opening Ceremony)

https://www.youtube.com/watch?v=8m_2MaxYkcA&t=5004s (Closing Ceremony)

次回、第11回WUFはポーランドのカトヴィツェで開催予定です。



FUKUOKA100

人生100年時代の
健寿社会モデルをつくる
100のアクション



『福岡100』とは、人生100年時代の到来を見据えて、一人ひとりが心身ともに健康で“自分らしく”生きていける持続可能な社会システム、すなわち、「個人」と「社会」双方が幸せになれる健寿社会モデルづくりのコンセプトと、それを具現化するための100のアクションを総称したものです。

福岡100では2025年までに100のアクションを実践することとしており、2017年7月の立ち上げ以降、これまでに実践したアクションは56に上ります。

アクションは、AIやIoTなどの先端技術を活用したもの、産学官の連携プロジェクト等多岐に渡りますが、今回は地元に着目した2つのアクションをご紹介します。



福岡ヘルス・ラボ
Fukuoka Health Lab

福岡ヘルス・ラボ

福岡ヘルス・ラボは、「楽しみながら」、「自然に」健康づくりに取り組めること（健康行動の習慣化）が期待できる製品・サービスについて、市民の参画を得ながら、その効果を検証し、評価・認証する仕組みです。

社会実験の結果、健康行動の習慣化などへの効果があると評価できる場合は、福岡ヘルス・ラボが「楽しみながら自然に健康づくりに取り組めるプロダクト」として認証し、PRの場の提供などを通じて、当該製品・サービスの普及を後押しすることで、社会実装を支援し、市民の健康寿命の延伸を目指します。



福岡ヘルス・ラボで認証したサービスの実施風景

ベンチプロジェクト

福岡市では、誰もが気軽に外出しやすいまちをめざして、バス停などの身近な場所にベンチを設置する「ベンチプロジェクト」を推進しています。

歩道、市有地だけではなく、バス停付近や多くの人を通る場所付近の民有地へのベンチ購入補助制度の活用により、地域や企業のみならずにもご協力いただきながら、ベンチ設置を進めています。



市内各所に設置しているベンチの写真と
ベンチプロジェクトのイメージ図

情報提供のお願い

会員都市の担当者の皆様の寄稿をお待ちしています。貴市のトピックスや新規事業、都市問題の解決のヒントとなるような貴市における課題解決の取組みなど、お気軽に情報をお寄せください。

(ニューズレターは、アジア太平洋都市サミットホームページに掲載し、会員都市などへemail送信しております。)

今後のアジア太平洋都市サミットの開催予定

開催時期	会議名	開催地
2020年11月9日～11日	第13回アジア太平洋都市サミット	福岡市（日本）
2022年	第14回アジア太平洋都市サミット	未定

※ 第14回アジア太平洋都市サミットの開催地については、第13回アジア太平洋都市サミットの全体会議に諮ったうえで決定いたします。

アジア太平洋都市サミット会員都市

アジア太平洋都市サミットは、アジア太平洋地域の都市問題解決に向け、市長会議や実務者による会議等を通じて、都市の連携やネットワークの構築を図っています。

【オーストラリア】

ブリスベン市

【カンボジア】

プノンペン都

【中華人民共和国】

長沙市、大連市、広州市、香港特別行政区、上海市、ウルムチ市

【インドネシア】

ジャカルタ特別市

【日本】

福岡市、鹿児島市、北九州市、熊本市、宮崎市、長崎市、那覇市、大分市、佐賀市

【マレーシア】

イポー市、クアラルンプール市

【ミャンマー】

ヤンゴン市

【ニュージーランド】

オークランド市

【フィリピン】

マニラ市

【大韓民国】

釜山広域市、光陽市、済州特別自治道、浦項市

【ロシア連邦】

ウラジオストク市

【シンガポール】

【タイ】

バンコク都

【米国】

ホノルル市

【ベトナム】

ホーチミン市

15か国 32都市

【編集・発行】2020年3月28日

アジア太平洋都市サミット事務局（福岡市総務企画局国際部）

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 TEL: +81-(0)92-711-4028

Email: apcs@city.fukuoka.lg.jp Website: <http://apcs.city.fukuoka.lg.jp/>